



## 令和5年度日臨技九州支部 医学検査学会の開催にあたって

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会  
代表理事 会長 宮島 喜文

本学会が、一般社団法人佐賀県臨床検査技師会の平野敬之会長の下で、メインテーマ「未来への改革 ～臨床検査のソーシャル・イノベーション～」として開催されますことを会員の皆様とともにお慶び申し上げます。

また、平素より一般社団法人日本臨床衛生検査技師会（以下、日臨技と略す）の活動に、ご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和5年5月8日以降は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、5類感染症に移行され、国内においては社会・経済活動が再開され、コロナ禍前の状況に戻りつつあります。

日臨技においても、5月には第72回日本医学検査学会（高崎）を開催し、6月には創立70周年記念式典を挙げるなど関係者が一堂に会する行事も行いました。

ここ数年、コロナ禍において中止あるいは規模を縮小した形式での開催を余儀なくされていたこの支部学会も、今年は多くの会員・関係者が集い、開催できるものと喜んでおります。対面での最新の研究成果の発表や、活発な討議を始め、交流会で親睦を深めることにも大変意義があり、主催者としても例年にも増して期待を寄せるところです。

さて、我が国はコロナ禍の中で以前にも増して、少子・高齢化が進行しました。更には、最近、経済活動が活発となり、企業などにおいては求人も増えています。しかし、この先の人口の将来予測では、人口減少が加速し、2040年頃には高齢者人口がピークを超えることから、医療・介護の需用も減少することが予測されています。医療の需用は患者数の減少でもあり、当然検査数の減少にも繋がります。更には、最近の「臨床検査技師数の需用と供給に関する研究」によれば、7、8年後には臨床検査技師が過剰になると指摘されており、厳しい状況を迎えています。

日臨技としては、今まで進めてきたタスク・シフト/シェアなど、主要事業を進めるとともに、次世代の臨床検査業界を担う人材育成を主眼とした取り組みも強化していきます。

この学会は担当県実行委員会の中心に、時勢に即した特色ある企画と、円滑な運営で進められ、会員の皆様への最新の情報提供と研究成果を発表する身近な学会として期待されています。

本学会の盛会を祈念するとともに、運営するにあたりご尽力をいただきました平野敬之学会長、石隈麻邪実行委員長をはじめ、佐賀県臨床検査技師会の皆様に心より感謝申し上げます。

令和5年7月吉日